

# Shining ほいく



No.33：令和2年11月26日発行  
編集・発行 保育サービス課研修担当

令和2年度は思いもよらぬ『コロナ禍』のなか、保育サービス課研修のスタートは半年近く遅れることとなりました。ようやく9月からの本格スタートとなったわけですが、コロナ禍故に多くの研修生は『新しい時代の保育の在り方』を念頭に置き、受講に臨んでいることと思います

「Shining ほいく」は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行している機関紙です。研修受講後、各園では“保育の質を向上するために”研修で学んだことを、どのように実践につなげていくか、きっと色々工夫をされていることと思います。

そこで「Shining ほいく」を読んでいただき・・・

- ①「この間の研修どんな研修だった？」と園の先生と話すときに「参考になる！」
- ②ほかの園で、研修をどのように活用しているか知りたいときに「ためになる！」
- ③保育を改善したいとき「なるほど！と気づきがある」

そんな紙面になれたらいいなあ写真も掲載し、保育園の実践や保育の工夫、みなさんの声をお届けしていきます！！

Shining！一緒に磨こう！私達の保育を！ 次号もおたのしみに！

令和2年9月11日（金） 「楽しい運動遊び」：講師 子ども運動遊び専門家 倉上 千恵先生

- 研修の3つの柱
1. 子どもの発達に応じた運動遊び
  2. 効果的な運動遊びの進め方
  3. 子どもの心が動く言葉かけ



- 運動によって促される3つの発達
1. 心の発達
  2. 体の発達
  3. 脳の発達

## 皆さんの研修報告書より：研修全体で学んだこと・感じたこと

資料には年齢ごとに運動遊びの例が列挙されており、運動遊びを考える上で、どういった点に着目すれば良いかが分かり易く参考文献も充実しているので、研修後の自主学習の足掛かりになります。

0歳児から日々の中で取り組んでいく中で体が作られ身のこなしが巧みになっていくので、段階を踏んで遊びを展開したり、継続して行う事が大切だと感じました。

今まで柔軟体操や準備体操はこうでなくてはならないなど、マンネリ化した保育をしていたと振り返ることができました。

倉上先生が自己紹介される中で『我以外皆我師』という言葉があり、心に刺さりました。

『我以外皆我師』・・・「宮本武蔵」の作者 吉川英治の言葉で『われ以外 みな わが師』と読みます。「自分以外のものは全て（人でも物でも）私の師である」という意味です。

基本的なワニ歩きやクマ歩き、手押し車などをたくさん行い背筋、胸筋、脚力を付け、ケガをしない身体をつくり、楽しい運動遊びへとどんどん広げていきたいと感じました。

実際に運動遊びをしている映像が多く、イメージを掴みやすい内容でした。また、指導者が子どもたちを引きつけるような声掛けや表情で、一緒に楽しんで行くことも、子どもたちが楽しめるポイントのひとつだと感じました。

『中間の子どもにも目を向けていく』という言葉に気付かされ『視点を変えて一人ひとりの良いところに注目し認めていく』という話に共感しました。

参考文献（一部）＝研修資料より＝

正木健雄	脳をきたえる「じゃれつき遊び」	小学館
出村慎一	幼児のからだを育てる運動あそび	杏林書院
丸山美和子	リズム運動と子どもの発達	かもがわ出版
田中真介	発達がわかれば子どもが見える	乳幼児保育研究会
宮丸凱史	子どもの運動・遊び・発達	学研
斉藤孝	「五感力」を育てる	中公新書

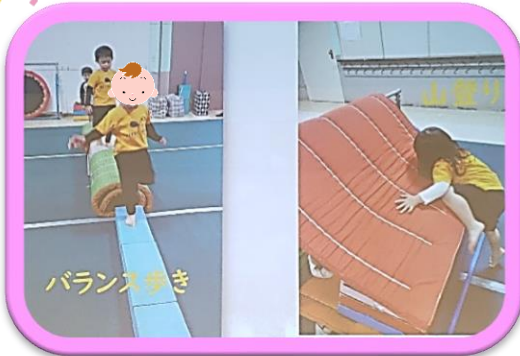


足裏を使った遊びやマット蹴り、マット押し相撲等の発散遊びは、子ども達に経験させたいと感じました。今後の、運動遊びの中で子ども達が限界を知る事、自分の身体を知る事も取り入れていきたいと思ひます。

クマ歩き、不整地でバランスをとる遊びなど、子どもたちと一緒に楽しみながら取り入れ「やってみたい」「できた」という成功体験を増やしていきたいと思ひました。



現在、担任をしている2歳児は身体が思うように動かせるようになってたり、力やバランスが身についてくる時期だと感じているので、しっかりと手をついて進むクマ歩きなど自分の力で身体を支えたり、動かす遊びを積極的に取り入れ心身の発達につなげていきたいと思ひます。



コロナ禍で運動遊びが思うようにできない中、工夫の仕方、やり方などのポイントを知ることができました。

資料を基にした遊びや、紹介された運動遊びを実際に子どもたちと楽しみたいと思ひます。静と動を組み合わせ変化をつけることで体あそびだけでも十分運動活動になることや、簡単な道具でできる遊びがわかったので運動遊びのハードルが下がり、日々の活動の中に取り入れていこうと思ひます。

タブレットやテレビを見る機会の多い子どもたちに、眼球運動を取り入れた遊びも経験させていきたいと思ひました。またボールが、マットの下に入れることでマット運動にも使えることが分かったので試していきたいと思ひます。



令和2年9月14日(月) 「幼児向け工作」：講師 淑徳大学講師 荒巻 光子先生



\*遊び教室「遊び塾はらっぱ」での活動から子どもが楽しめる遊び、工作を学ぶ\*

隣同士で「できてるね」と見せ合い、進みを確認することで安心して次の作業にいく事ができるということを知り、製作活動にも友達関係や言葉・気持ちの伝え合いが大切だと感じました。これから制作時にはそのような子ども同士のやり取りが出来る時間を意識していきたいと思ひました。



講師の先生が楽しい気持ちで教えてくれた事で、私たちも楽しくなれたということは、子どもたちも同じだと感じました。一生懸命教えがちななってしまひますが、楽しくやっていきたいと思ひます。



制作は完成するまでの過程が大切であるという話を聞き、改めて子どもの声、姿に共感し楽しく取り組んでいきたいと思ひました。

「みんな褒めてほしい」その子の気持ちを大切にという言葉が心に残りました。



作り方を分かり易く説明する時の言葉選び、例えば「折ったところと残ったところが同じになるように折るよ」「鳥のくちばしみたいに三角に出すよ」など子どもがイメージしやすいもので具体的に伝えると分かり易いことを実感しました。また、もの作りを教えてもらう立場になったことで、制作は作る楽しさと不安があるのだと感じました。分からなかった時に個別に教えてくれること、見やすい分かり易い説明をしてくれることなど当たり前かもしれないが、教える立場になった時にも意識したいと思ひました。





【研修担当者より】

身近な素材を使った工作は即保育に取り入れることができ、遊びの広がりや、展開させていくヒントが多く、工作を通して子どもの気持ち、心を育てる関わり方も学べた。想像力、発想力を引き出し、楽しい、やってみたいという保育につなげてほしい。



フリスビー

折りたたんだ紙で輪を作り、輪にビニールを被せたフリスビー



スタンドグラス

切り紙をクリアファイルにハサミ、切り抜いた箇所に彩色した簡単なスタンドグラス



ティアラ

モールを束ねて、形を作り上げるティアラ



翌日フリスビーで子どもたちと遊んでみたところ、「作ってみたい」という声がたくさん出ました。保育に取り入れます。

ごっこ遊びの中や行事の中で、スタンドグラス、ティアラなどを使りたいと思います。

早速、紙でっぽうを子どもたちと作って楽しみました。手首のスナップは、ボールを投げる動作につながるということ、子どもによって使い方が違い体の使い方も見る事ができました。

クラスの子もたちは制作が好きなので、インターネットの講習も見せてもらいながら保育に取り入れていきたいと思えます。

本来はホチキスで止める場所を危なくないようにガムテープでもできるようにするなど実際に保育でやるとしたら…の方法を教えてもらったのでイメージがしやすく保育で取り入れていきます。

折り紙に向きがあり、切りやすい方向やハサミの正しい持ち方など、今まで自分が知らなかった知識を得たので職場で共有していきたいと思えます。

令和2年9月29日(火)「命を守るための保育」：講師 東京都市大学客員教授 猪熊 弘子先生

研修のまとめ = 講義内容より =

《命を大切にすることは、「子ども一人一人の存在」を大切にすること。》

- 一人一人の発達を見る、理解する、出来る事をしっかり見る（自分で出来るようになるまでは、させないことも大切）
- 子どもが求めていること、やりたいことを知る。子どもを受け止める。



※保育士がこれを意識することで『安全』へとつながり、『良い保育』の実践が子どもの命を守ることに繋がります。

《新しい時代の保育『子どもを主体の保育』に必要なものは…》

- 本当の『子ども主体』とは…子どもの声を聞きましょう！
- 『やらせる』ではなく『放任』でもなく『放置』でもない！
- 子どもの『やりたくない！』という主体性にも向き合きましょう
- ～強制・矯正ではなく、『共生』が大切。保育者も一緒に育つ。保育者も楽しい！～
- 「子どもの自由」を確保するためには「大人側の十分な準備と配慮」が必要です。

《事故を起こさないためにすべきこと…》

- 子どもに関わる大人の能力を一人一人が向上させることも大切ですが、何よりも大切なのは『健全な組織』をつくること。
- 気になることが有ったらハードとソフトを変えてみましょう！
- ☆先に変えるべきはハード。ハードを変えてからソフト面である『係の大人』をつくり『子どもとのルール』をつくりましょう。



\*\*\*\*\*



◎保育の中身を共に考える『健全な組織』づくり  
…保育は人間同士のつながりが大切です。

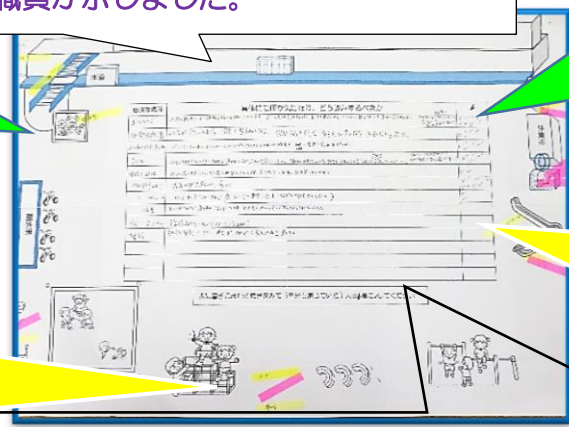
保育施設で最も危険な場面と年齢

- ① 睡眠中・・・0歳 1歳
- ② 食事中・・・1歳 2歳（3歳以上もある）
- ③ 水遊び中・・・3歳以上
- ④ 園外活動中・・・3歳以上

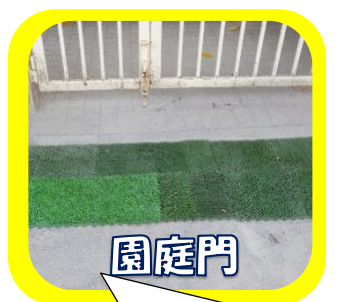
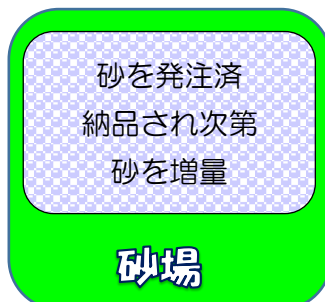
死亡事故は0～1歳児が多数  
怪我は5歳児が多数「骨折：歯：痙攣」  
※一人の保育士が（幼児）みている子どもの人数が23名を超えると怪我が急増する※

研修を受けて…ハードを見直してみよう！ 実践の記録：高島平くるみ保育園

\*保育園の環境（ハード）を見直す  
取り組みとして『園庭の見取り図』  
に『危険』『気になる』等の箇所を  
職員が示しました。



危険な場所	具体的に何が気になりどう改善するべきか
水道裏	子どもが入り込んだら見えない。柵を設けては？
ボールかご	滑り台の奥にあり、子どもがボールをとる際見えない。花壇側に立って取ると危ない。置き場所の変更・カゴを換える？
園庭門	段差があり危ない。マットを敷いているがめくれて危ない。マットを交換し段差を解消する？
砂場（小）	砂が減り、出入りする際乳児は危険。砂を足す。



使用しなくなったボール入れを配置してみました。柵や扉を付けるには工事が必要になります。

子ども達に取り出しやすいコンテナボックスに変えてみました。

人口芝を敷いてみました。出来ればジョイントせずには置けるものを購入したいと検討中です。

危険、気になる箇所については全部で10箇所挙げられていました。今回は、『すぐに改善できる箇所』（園庭門：ボールカゴ）若しくは『すぐに改善するべき箇所』（水道裏）をピックアップしました。大きな工事や予算が必要な箇所も挙げられていました。（事務所側通用門脇段差、外階段の手すり、外階段踊り場の床材等）これについては検討を重ねながら必要であれば、修繕の相談をしていきたいと思っています。危険と感じている箇所（7か所）については概ね同意見の職員が5～6名はいました。こういった試みを繰り返し行うことで、職員の意識が高まり、保育環境が整っていくのでは…と感じました。

